様々な場面で使う
シール（ステッカー）印刷

- 社名シール
- 商品シール

- 訂正シール
- サイズ表示シール

- イベント用ステッカー
- 販促用ステッカー

- 注意書きシール

など

めくりやすいハーフカット、切抜きも可能
1,000枚以上はオフセット印刷、
小ロットはオンデマンド印刷で

お気軽にご相談下さい。

<シールとステッカーの違い>

明確な定義はありませんが、下記のように使われることが多いようです。

シール：主に屋内用　紙素材で作られることが多い

ステッカー：主に屋外用　フィルム、アルミ等素材も様々で耐候性を要する場合も多い

株式会社　宏　和　Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22　TEL 06-6789-2313　FAX 06-6789-2339

http://www.d-kowa.co.jp/　http://scanning.jp/

オンデマンド印刷	会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷	取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務	紙文書･紙図面スキャニング（電子化）サービス、データエントリー（入力）、データコンバート
CAD業務	CAD データ出力、CAD データ入力（トレース・設計）、電子納品データ作成
コピー・製本	大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他	人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャニング、WEB 制作

コウワノワ 12 Vol.27

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-0012 東大阪市長田東1－7－22　TEL 06-6789-2313

(株)宏和

㈱宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワノワ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.27

2017 12 December

先日、アメリカ、シリコンバレーに視察旅行に行ってこられた同業の社長に話を聞きました。滞在中、移動はほとんどライドシェアのウーバーを利用したとのことで、その便利さ、安さを体感され、驚かれていました。アジア各国でも、ネットを利用した新しいサービスが普及しはじめ、キャッシュレス化は急速に進んでいますし、世界はどんどん変わっていきます。

代表取締役　**日笠宏昭**

今年5月に発表され、賛否両論、大きな反響を呼んだ

経済産業省 次官・若手プロジェクト資料

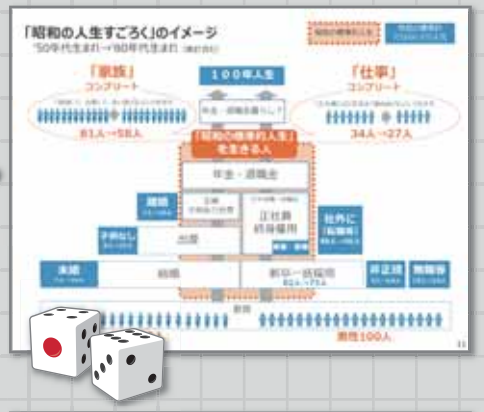
不安な個人・立ちすくむ国家　～モデルなき時代をどう前向きに生き抜くか～

今年もはや12月。あっという間の1年という感じです。今月は、今年5月に発表され、行政が作成した資料としては異例の1ヶ月で100万ダウンロード（現在ではもっと増えていると思いますが）を記録した**「経済産業省 次官・若手プロジェクト資料　不安な個人・立ちすくむ国家」**をご紹介します。今年最後の話題としてはちょっと重いかもしれませんがご容赦下さい。

このプロジェクトは昨年８月に省内公募で選ばれた20代・30代の若手30名により構成され、議論・検討の後、今年発表されたとのことです。

・内容の切実さや、的確に表現された閉塞感
・若手官僚の熱い志
に、多くの共感が集まり反響を呼びました。

官僚が作成した資料らしからぬ、わかりやすく率直な言い回しにも魅力があったのではないかと思います。

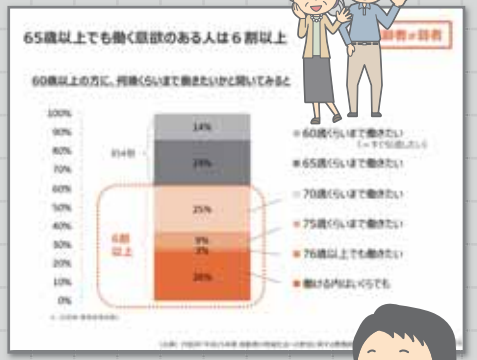


例えば、こんな文章です。

・なぜ日本は、大きな発想の転換や思い切った選択ができないままなのだろうか
・「サラリーマンと専業主婦で定年後は年金暮らし」という「昭和の人生すごろく」のコンプリート率は、既に大幅に下がっている
・今後は、人生100年、二毛作三毛作が当たり前
・①定年後、まだまだ働きたいのに、働く場所がない
②人生の終末期に過ごす場所を、望み通り選べない
・・・手厚い年金や医療も、必ずしも高齢者を幸せにしていない 一方で、
③母子家庭になると、半数以上は貧困に
④一度、非正規になると貧困から抜け出せず、子どもまでも
・・・社会のひずみの縮図のような弱者が生まれている また、
⑤若者の社会貢献意識は高いのに、活躍できていない

こんなもったいない状況を放置していいはずがない

・定年退職後は日がなテレビを見て過ごしている
・健康で長生きしたあとで人生最後の一ヶ月に、莫大な費用をかけてありとあらゆる延命治療が行われる現在
・際限なく医療・介護・年金等にどんどん富をつぎ込むことに、日本の社会はいつまで耐えられるのだろうか
・母子家庭の貧困、こどもの貧困を、どこかで「自己責任」と断じていないか
・日本の母子家庭の貧困率は世界でも突出して高い
・現役世代に極端に冷たい社会
・「シルバー民主主義」を背景に大胆な改革は困難と思い込み、誰もが本質的な課題から逃げているのではないか
・従来の延長線上で個別制度を少しずつ手直しするのではなく、今こそ、社会の仕組みを新しい価値観に基づいて抜本的に組み替える時期に来ているのではないか
・優先順位を逆転し、子どもへのケアや教育を社会に対する投資と捉え、真っ先に必要な予算を確保するよう、財政のあり方を抜本的に見直すべきではないか
・従来は、勤労世代が高齢者を支えるという考え方。発想を転換し、子どもを大人が支えると考えれば、子どもを支える大人は増加
・今回、高齢者が社会を支える側に回れるかは、日本が少子高齢化を克服できるかの最後のチャンス。２度目の見逃し三振はもう許されない。
・日本はアジアがいずれ経験する高齢化を20年早く経験する。これを解決していくのが日本に課せられた歴史的使命であり挑戦しがいのある課題ではないか。



一方で、否定的な意見も多く出されています。例をあげるとこんな感じです。

・「昭和の人生すごろく」は東京的な考え方で、そもそも地方には新卒採用、定年、終身雇用が少なく、人生すごろくはもとから存在しない
・高齢者と現役世代の対立を煽るな
・時代認識のもとになるデータがいい加減で根拠がない
・高齢者の予算を減らすと、巡り巡って困るのは親をほっておけない現役世代
・批判するのであれば実際に制度を変えて実行してほしい
・具体的結論がない

（詳細資料：ネットで「経済産業省 次官・若手プロジェクト」で検索すると、PDF ファイルが見られます。ご興味のある方は是非どうぞ。）

いずれにしても、若手官僚からこのような資料がでてきたことには意義があると思います。そして、日本が過去の知識・経験からでは対処できない高齢化社会・少子化社会を迎えていることは間違いありません。